一般質問 要旨

新市まちづくりの取り組みに質問集中

――観光基本計画は今年度中に策定――

第一回定例会での市政に対する一般質問は、三月十四日、十六日、十七日の三日間で行われ二十人の議員が登壇した。収入役廃止、野外芸術文化ゾーン、境界問題、観光振興、中央病院の医師確保対策、簡易水道整備などについて活発な議論が展開された。要旨は次のとおり。

総務文教

助役及び収入役について

質問　合併により市長の公務範囲が広くなることから行財政改革担当助役など、専門職務的な助役二人制度を導入し、収入役を廃止してはどうか。

答弁　合併により広大な行政区域となり、これに合わせて取り組むべき行政課題も多種多様化している。助役二人制度の趣旨は理解できるが、考えなければならない様々な要素があり、現段階では導入する考えはない。

　また、収入役の廃止については、市の会計事務について命令機関と執行機関を分離して事務の公正な掌理を確保しようとするものであり、収入役制度は必要であると考える。

野外芸術文化ゾーンについて

質問　昨年三月に示された構想と今回（十七年三月）の基本計画では余りにも骨格的なハード部分が変更され、管理運営についても民間主導から直営方向になり、イベントにも多額な負担が予想されるなど、大幅に違ってきていると思うが、その理由を伺いたい。

答弁　基本計画案は、社会的な条件や環境、経済状況、収支バランス等多角的な検証を行い、それに基づいた施設の機能や規模、それからアート作品の配置などのプランを策定したもの。構想にのせた事例は、あくまでも文化ゾーンのイメージを分かりやすくするためのものであり、趣旨や目的など基本的な考え方は変わっていない。

春の駒街道

イオン十和田SCについて

質問　イオン十和田ショッピングセンターの出店について、その造成費、建築費など投資金額はどれくらいか。あわせて、着工時期、オープン予定はいつごろか。

　また、地元雇用人数、税収はどれくらいか。

答弁　造成費七億円、建築費及び施設費三十億円、着工は四月下旬でオープンは十月上旬、雇用人員は、七百五十人を予定していると聞いている。

　固定資産税のうち土地については約一千三百万円、家屋については約三千三百万円の試算である。

境界問題について

質問　十和田市と秋田県小坂町との境界について、どのような解決策を考えているか。

答弁　これまでの経緯を尊重しながら、また、現地も見ながら解決に向けて小坂町と協議を進めていきたい。

　また、これは、青森県と秋田県の県境でもあることから、青森県とも十分相談、協議のうえ、問題解決をしていきたい。

「仲よし会」について

質問　学童保育「仲よし会」について、開設場所の増設はできないか。

　また、対象児童を三年生までとし、閉館時間を今の五時三十分から六時までに延長できないか。

答弁　増設については、需要の面からどの程度の需要量があるのか把握していないため、今後調査のうえ、検討していきたい。

　また、対象児童についても、県内七市ではいずれも三年生までの受け入れとなっているが、児童数の増加、空き教室等場所の確保の問題、経費の問題など十分検討していきたい。

　閉館時間の延長については、現在、午後五時三十分の閉館時間を経過しても保護者が迎えに来るまでは閉館せず柔軟に対応していることから、閉館時間を変更する考えはない。

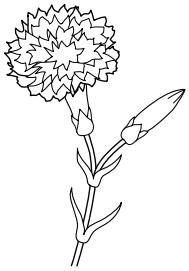
温浴施設について

質問　馬事公苑事業で凍結されている温浴施設を解除する考えはないか。

答弁　今後、観光振興の展望と高齢化社会を見据えた健康増進の動向や財政状況を踏まえるとともに、十和田湖温泉郷及び近隣の温泉施設を利活用することをも検討し、判断していきたい。

一般質問者紹介

野月忠見
岩城康一郎
野月一博
工藤正廣
東秀夫
桜田博幸
紺野忠明
米田由太郎
山本富雄
相馬真子
畑山親弘
折田俊介
堰野端展雄
小川洋平
杉山道夫
田中重光
今泉勝博
小笠原光
野月一正
鳥越正美

（発言順）

注）発言順と掲載した順序とは一致しません。